

結果速報

2009年12月8日(火)

IFFT/インテリア ライフスタイル リビング
東京ビッグサイト(東京国際展示場)東2・3ホール
2009年12月2日(水) - 4日(金)

2万人を超える業界関係者を迎え、『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』が大盛況のうちに閉幕！

家具、ホームテキスタイル、雑貨など多彩なインテリア商材が集結

連日のトークセッションや企画展示エリアでは、業界のこれからのトレンド情報を発信！

2009年12月2日(水)から4日(金)まで開催された第2回『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』は、2万人を超える来場者を迎え、大盛況のうちに閉幕しました。

来場者数	12月2日(水) [晴れ]	7,293人
	12月3日(木) [雨]	6,183人
	12月4日(金) [晴れ]	6,750人
	合計	20,226人

リニューアル後2度目の開催となった今開催では、最終日の一般公開をなくして会期を4日間から3日間に短縮し、完全なB-to-Bの商業見本市としての開催となりました。また、社団法人日本家具工業連合会〔会長：日進木工(株) 北村 斉〕主催の『につぼんらいふ 2009 一木の家具・生活具展-』が、IFFT/インテリア ライフスタイル リビングに特別出展ゾーンとして初参加したことにより、国内の主要な家具産地からの出展がこれまで以上に充実しました。インテリアを構成する家具、雑貨、ホームテキスタイルといった多彩な商材がバランス良く出展され、あらゆるインテリアビジネス関係者にとって見ごたえある展示内容になりました。昨今の経済状況の影響や開催期間の短縮などにより、昨年の26,912人を下回る20,226人の来場者数となりましたが、最新の製品やトレンド情報を求めて足を運んだ来場者の多くが精力的に出展者ブースを回り、活気に溢れる会場では多くの出展者のみなさんからポジティブなお声を聞くことができました。

出展者からのポジティブな意見

多数の業界関係者が集結する『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』では、新製品や市場に出る前のプロトタイプも多数出展されており、最新のトレンドや市場にまだ流通していない新製品がいち早くチェックできる見本市です。今年も新製品の発表、ここでしか見られない興味深いコラボレーションによる展示が多く見られ、多数の業界関係者が集結した会場内では、盛んに商談や情報交換が行われていました。出展展示のクオオリティーの高さ、そして充実した内容の企画展示やプログラムに、出展者・来場者双方からは満足の声が聞かれました。

特別展示ゾーンとして初めて IFFT/インテリア ライフスタイル リビング内に参加した『につぼんらいふ』のプロデューサーである佐戸川氏((株)ゼロファーストデザイン)は、今回の参加について次のように語った。「これまで、『につぼんらいふ』としては横浜で単独で開催したり、別の見本市と一緒に開催したりしてきたが、今回、これまでで一番良い形で開催できたと思っています。インテリアって、家具があって、ファブリックがあって、雑貨があってはじめて成り立つでしょう。だから、こうして家具も雑貨もファブリックも全て出展されている総合見本市って、来場されるみなさんにとっても一回の来場で全てのトレンドが見れるから重宝だと思いますし、出展している側にとっても、他のセグメントのトレンドを見たり、情報交換したりできる有意義な場所だと思うのです。特に『につぼんらいふ』にご出展いただいている木工家具メーカーさんは普段地方にいらっしゃるし、こうして他分野の方と一緒に出展することは良い刺激になったと思います。今回、デザイナーをフィーチャーしたエリア『SOON(スーン)』とこれからの家具のトレンドを提案するエリアを手前に設けたのですが、これが来場者・出展者の双方から好評でした。出展者が実際に展示している商材の中からトレンドに合うアイテムを選んで展示を行いましたので、製品が選ばれた出展者には非常に喜ばれました。また、来場者の方も「これからどんな商品がトレンドとなるのか」といったトレンド予測の情報を求めていらっしゃるのでは、非常に多くの来場者に立ち寄っていただけました。『SOON』に関しても、20代~30代の面白いアイデアを持ったデザイナーが25組ほど出展していたのですが、周りで出展していた家具メーカーさんにとっては若手デザイナーの斬新なデザインを見たり、彼らと意見交換したりできる場は貴重だったようで、出展者同士の間で活発なコミュニケーションが生まれていたようです。見本市の良さって結局、目先の受注ができるとかということ以上に、人と人、ものともものが出会って、そこにコミュニケーションが生まれて、それが新しいコラボレーションにつながったりする、そういうことだと思うのです。そういう意味でも今回の出展は非常に良かったと思います。」

『miyakonjo product』というブランド名で家具を製造している宮崎を拠点とする家具メーカーの(株)クワハタの中村裕樹氏は、「弊社ブースの奥に設置した壇上で展示していた子供用家具は全て、今回の見本市に向けて作った新作です。弊社は地元で開催している地方展以外には、この『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』以外に出展していないため、この見本市は我々にとって大事なビジネスの場です。本当に貴重な新作発表の場となっています。既存のお客様はもちろん、これまで取引のない家具の小売店やセレクトショップ、キッズ向けのショップなど、新しく取引ができそうな来場者に来ていただきました。弊社の家具は大部分が手仕事で作っているため、これから忙しくなりそうです」と出展で得られた手ごたえに顔をほころばせた。

今回、『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』に初出展を果たした(株)オーエの代表取締役専務である大工俊二氏は、出展の手ごたえについて次のようにコメントしました。「今回展示しましたバスルーム用清掃グッズ 11 点は、全て今回の見本市で初めて披露する開発したての新商品です。ここでみなさんにお披露目して、これから販売先を見つけてということになるので、実際に販売されるのは来年の3月ぐらいになるかと思っています。これまでは大量生産的な日用品を製造していたため、取引先もホームセンターやGMSなどだったのですが、よりデザイン性を追及した製品を新しく開発したので、既存の販売ルートではなく、専門店での販売ルートを新しく見つけたいと思い、出展しました。出展成果は予想以上です！セレクトショップ、百貨店、専門店など色々な業態の方に興味を持っていただけ、あまりの反響の大きさに驚いています。以前は大きな見本市に出展したら、そこであらゆる業態のバイヤーさんにアプローチできると考えていたが、今ではどんな業態の方と商談したいかというターゲットに沿って出展する見本市を選ぶようにし

ています。今回はよりアップナーな販売ルートを見つけるための出展だったので、ハイエンドな商材が多いライフスタイル展が最適だと判断し、タイミングが合ったこの12月に展覧しました。」

木本硝子(株)の代表取締役である木本誠一氏は、「伝統的な江戸切子というのは、今は売れなくなっている。それで江戸切子の職人さんたちに「もっと新しいスタイルの江戸切子を作ろう」って声をかけて、作ったのが今回出展している江戸切子です。職人さんたちにこの新しいブランドのコンセプトを理解していただくこと、そして何よりこれまでの江戸切子にない色を出すを出すのに、何年もかかりました。黒と白の江戸切子は珍しいと思いますが、例えば黒の方は9回も色を重ねてこの発色を実現しており、製造には非常に手がかかっています。手がかかる分、販売値段は下げられないので、高級百貨店でしかこれまでのところ販売できていません。今回出展して、ニューヨークの MOMA のバイヤーさんからもお話をいただいたし、ボストンからのバイヤーにも「絶対売れる！」と言っていただき、非常に良い手ごたえがつかめました。とにかく会期中は3日間ずっと客足が途絶えることなく、おかげさまで多くのご来場者に来ていただき、色々なお話をいただくことができました。出店前に話がしたいと思っていたようなところの方とは全て会えました。思っていた以上の反響に、今後は海外でも販売したいなと思っています」と、今後のビジネス展開への意欲が伺えました。

テキスタイルを出展した(株)川島織物セルコンインテリア事業部マーケティングチームリーダーの玉木克昌氏は、「今回こちらの見本市には初めて出展させていただきましたが、普段、我々が出展しているテキスタイル専門の見本市とは違い、家具の販売店やライフスタイルショップ、雑貨店など我々にとって新しい来場者層に会えたことが、出展して良かった点だと思います。手が空いている時に他社さんのブースなどを一通り見て回ったが、他の出展者さまの中にも販売店舗を持っていらっしゃる場所があるので、そういうところの方ともお話ができたことも収穫でした。出展者さんの中には、店舗を持っていらっしゃるような方もいれば、我々のようなメーカーもいて、また個人のデザイナーさんもいる。同じ業界内にいながら普段なかなか交流できないみなさんと、こうした見本市の場で交流することができれば、情報交換ができるし、ここでの出会いから新しいコラボレーションなども生まれるのではないかと思います」とコメントしました。

大好評の特別企画！

多彩な出展者の顔ぶれに加えて、見本市の見どころとなったのが他では見られないトレンドを先取りした斬新な特別企画です。今開催の『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』では、著名ホームテキスタイルエディターとライフスタイルブランドによるコラボレーション展示などの特別展示に加えて、日本のデザインビジネスシーンを牽引するプロダクトデザイナーや空間プロデューサーによるトークショー『Lifestyle Salon 2009(ライフスタイル サロン 2009)』が見どころとして開催されました。連日異なる切り口で開催された『Lifestyle Salon 2009』では、デザイン・インテリアビジネスやモノづくりに関わる多くの来場者が聴講し、ビジネスのヒントやトレンド最前線のホットな情報に耳を傾けました。どのセッションも立ち見での参加者が多数出る大盛況な開催となりました。

そんな中でも一際注目を集めたのが、『Dan Project』のブランド名でトレンドカフェ横の特別企画出展ゾーンに出展していた DAN project 主宰の南村弾氏によるトレンドセミナーでした。毎年1月にフランクフルト(ドイツ)で開催される世界最大級のホームテキスタイル国際見本市『ハイムテキスタイル』のトレンド予測

チームメンバー(トレンドセッター)として、日本人としてはじめて迎え入れられたデザイナーである南村氏によるギャラリートーク形式のセミナーでは、2010~2011年のホームテキスタイルのトレンド情報をいち早く聞きたい業界関係者が多数集まりました。その人気ぶりたるや、当初想定していた参加予定者数の3~4倍の来場者が聴講を希望され、セミナーが開催されたトレンド展示エリアは参加者で溢れ、ご覧いただけない方も出るほどでした。

南村氏は、今回のセミナーとご自身のブランドの出展に関して、以下のように語りました。「今回は初日の一番初めにトークショーをやらせていただきました。大勢のみなさんの前でお話するということが非常に緊張しましたが、本当に多数のみなさんに出席いただくことができ、それが嬉しかったです。次シーズンのホームテキスタイルのトレンドについての紹介、そしてトレンドが設定されるまでの過程をご説明させていただいたのですが、単なるトレンド紹介だけではなく、その背景や過程までお話をさせていただける機会はなかなかないので、良い機会だったのではないかと思います。また、世界的に権威あるハイムテキスタイルのトレンドを世界に先駆けて日本で一番初めに自分をご紹介させていただけるということに、非常に誇りを感じました。また、今回はカフェエリアのあるゾーンに出展させていただきましたが、これは本当に楽しかったです。本当に色々な方がブースに立ち寄ってくださって、色々なお話をさせていただくことができました。カフェなどの飲食ビジネスの方もいらっしゃれば、百貨店のバイヤーさん、変わったところでは人形を作ってもらっしゃるという方もいらっしゃいました。ビジネスに結びつくお話もいただきました。」

次回の『IFFT/インテリア ライフスタイル リビング』は、2010年11月24日(水)から26日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて開催されます。また、デザイン雑貨がメインで出展される『インテリア ライフスタイル』は、2010年6月2日(水)~4日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて開催されます。

— 終わり —

全 5,289 文字(スペース含む)

問い合わせ

メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

プレス・PR 担当 新居延訓子

Tel: 03 3262 8453 / Fax: 03 3262 8442

niinobu@mesago-messefrankfurt.com